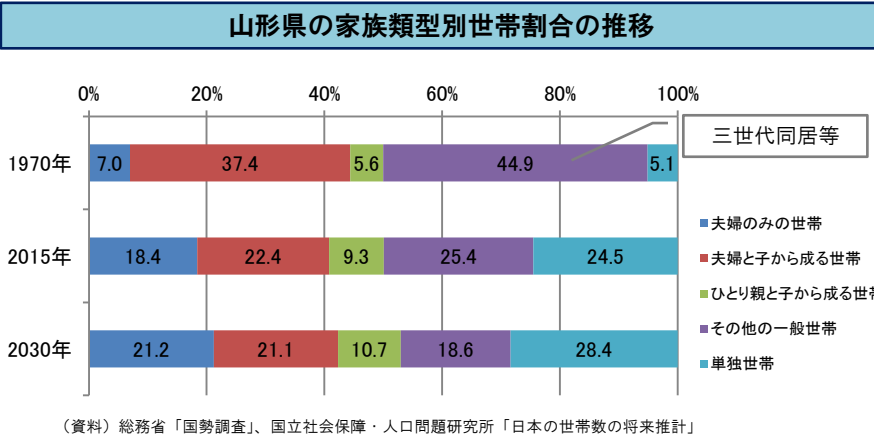
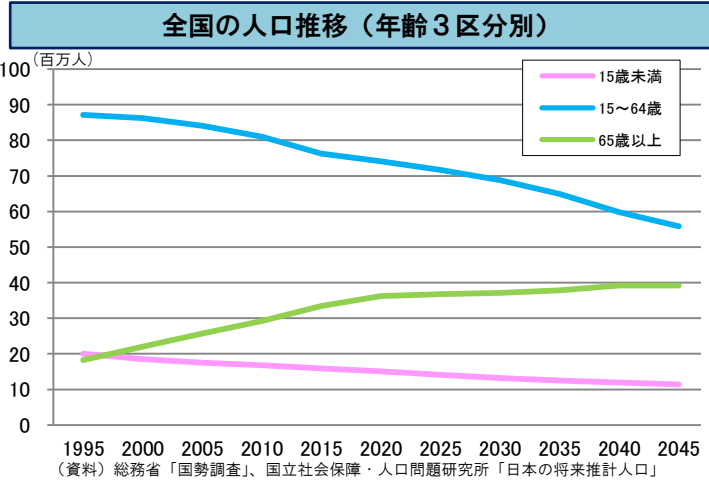
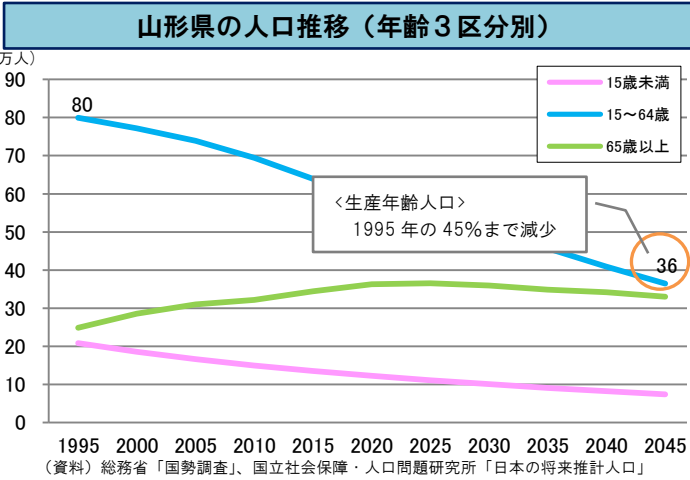
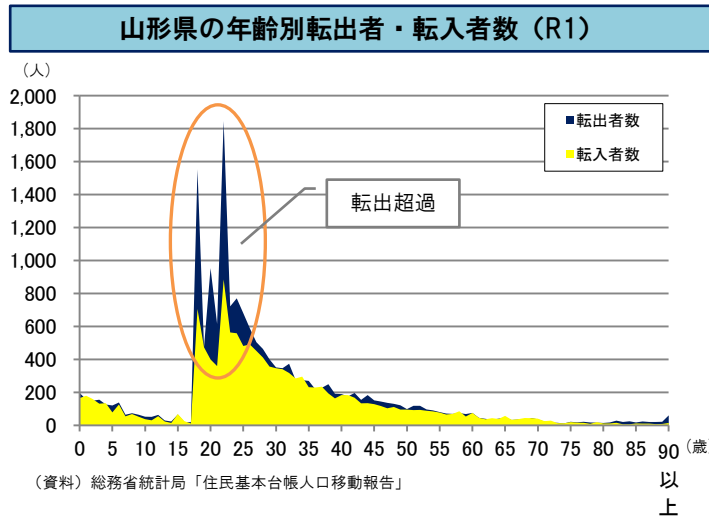
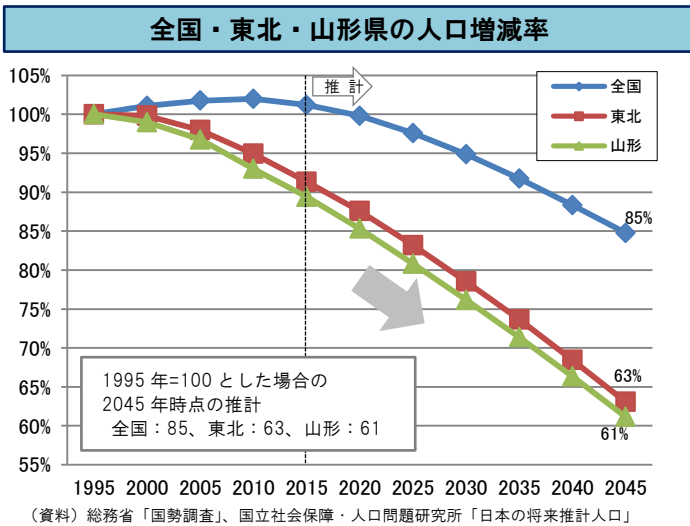


## 社会経済環境の変化①

### (少子高齢化に伴う人口減少の加速化)

- 本県の人口減少は、全国や東北地方全体よりも早期かつ急激に進行。
- 少子高齢化の進行や生産年齢人口の減少、若年層の流出等により、様々な分野で本県の将来に深刻な影響が懸念
- 本県の三世同居率は、この40年で半減した一方で、単独世帯の増加は続いている。こうした家族構造の変化は、介護や育児などの様々なニーズの顕在化や対応の外部化につながる可能性。



- ### 人口減少が本県の将来に与える影響
- **地域経済への影響**  
・労働力不足による生産活動の低下、消費支出の減少による経済成長力の低下
  - **地域医療・福祉・介護への影響**  
・老年人口の増加による需要の増加とそれに伴う労働力の不足
  - **教育・地域文化への影響**  
・児童・生徒数の減少による教育活動等の変化、担い手減少による地域文化の衰退
  - **地域コミュニティへの影響**  
・町村部における支えあいなどの機能の低下、都市部における市街地の空洞化による活力低下
  - **地域公共交通への影響**  
・通勤通学者など利用者の減少による経営への影響、高齢者の増加による必要性の高まり
  - **行財政への影響**  
・税収等の減少、社会保障費の増加等に伴う財政の硬直化による行政サービスの低下
- (資料) 「山形県人口ビジョン (R2改訂版)」

## 社会経済環境の変化②

### (価値観・暮らし方の多様化)

- 「働き方改革」が提唱され、労働時間の短縮とそのため労働生産性向上の議論が活発化。また、高齢者や女性などの潜在的労働力の活用、副業・兼業など、多様な働き方を前提とした労働環境へと変化。
- 「物の豊かさ」よりも「心の豊かさやゆとりのある生活」を重視する傾向。  
また、首都圏等の都市住民における「田園回帰志向」の高まりや消費行動に関して「モノ消費」から「コト消費」への流れなど、多様な豊かさに対する関心の高まり。

